

あいちトリエンナーレの開催について

1 あいちトリエンナーレ地域展開事業

これまでのあいちトリエンナーレの開催成果を県内各地に広め、文化芸術への関心を高めるとともに、あいちトリエンナーレ2019の開催機運の醸成を図るため、その中間年に実施される事業。現代美術の展覧会、市内の別会場を用いた「おでかけ展示」、出展作家を講師として学校に派遣しワークショップを行う「学校派遣」を実施する。

(1) 開催概要

テーマ「Windshield Time -わたしのフロントガラスから 現代美術 in 豊田」

① 現代美術展

現代美術作家（愛知県出身の作家やあいちトリエンナーレ出展作家を含む9名程度による作品を、豊田市内の文化施設やまちなか等に展示するとともに、出展作家によるワークショップ等を実施する。

- ・日程 2019年1月19日（土）～2月11日（月・祝）[24日間]
- ・場所 喜楽亭、とよた大衆芸術センター[TPAC]（旧波満屋旅館）、豊田参合館 他

② おでかけ展示

幅広い層に現代美術に触れていただくため、現代美術展出展作家の作品を豊田市内中山間地域の医療施設や道の駅を活用して展示。あわせて、それぞれの施設において、誰でも自由に創作活動ができる場を提供する。

- ・日程 2018年10月末～11月初旬（各施設2～3日程度）
- ・場所 足助病院（足助地区）、道の駅どんぐりの里いなぶ（稲武地区）

③ 学校派遣

現代美術展出展作家の作品に込める思いや制作方法を児童に伝え、自由な発想を育てるため、作家を講師として学校へ派遣する。

- ・日程 2018年9月～10月（各学校で1日開催）
- ・場所 豊田市立梅坪小学校・敷島小学校・御作小学校

(2) 主催

あいちトリエンナーレ地域展開事業実行委員会、豊田市

2 あいちトリエンナーレ2019（本展）

3年に1度、愛知県で開催される国内最大の国際的な現代アートの祭典。現代美術に加え、ダンス・演劇などの舞台芸術も展開する。また、まちなかでの作品展示や、さまざまな普及教育プログラムがあることも大きな特色である。

※トリエンナーレ＝3年に1度開催する国際芸術祭でイタリア語の3（トレ）に由来

(1) 目的

- ・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。
- ・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。
- ・RWC 2019の開催とともに、まちのにぎわいづくりに寄与する。

(2) 開催概要

テ ー マ	情の時代 Taming Y/Our Passion
芸術監督	津田大介 (ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)
会 期	2019年8月1日(木)～10月14日(月・祝) [75日間]
主な会場	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか(四間道・円頓寺地区など)、豊田市(豊田市美術館及びまちなか)
事業展開	「現代美術」を基軸に演劇や音楽プログラムなどの「舞台芸術」を展開 「まちなか」でのパフォーマンスや作品展示などを展開 幅広い層を対象とした「ラーニング」を展開 多様な主体との「連携」による事業を展開
主 催	あいちトリエンナーレ実行委員会

<参考> 過去の実績

●あいちトリエンナーレ2016

テーマ：虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅

会 期：2016年8月11日～10月23日(74日間)

会 場：愛知芸文センター、名古屋市美術館、長者町会場ほか 参加者数：431,648人

[岡崎地区]：康生会場、六供会場、岡崎公園ほか 参加者数：76,900人

[豊橋地区]：PLAT会場、水上ビル会場、豊橋市公会堂ほか 参加者数：93,087人

参加アーティスト数：119組 参加者数：601,635人

3 総合教育会議における議題趣旨

あいちトリエンナーレを生かし、豊田市の多様性ある文化芸術活動を促進し、多くの市民が参加し、文化芸術に親しみ、関心を高めていただくよう、どのような視点での取組が必要か。ご意見を伺いたい。

«意見交換のポイント»

- ・あいちトリエンナーレ実施に向けた機運の醸成を図る手法
- ・豊田市らしさを生かした取組の方向性について
- ・幅広い市民の参加を得て、すそ野拡大につなげる取組
- ・豊田市の文化レガシーにつなげるための方策